

進路選択の参考に

大分大病院薬剤部
高校生招き見学会

大分大学病院薬剤部(伊東弘樹教授)は11日、高校生を対象に同部を紹介する見学会を初めて開いた。薬剤師や創薬の仕事、役割を知ってもらうのが目的。



薬剤部の薬剤師から薬の調合について学ぶ高校生＝大分大学病院

県内から約60人が参加した。

伊東教授が薬学には薬を作る「創薬」と、最大限の効果が出るように薬を調合して患者に提供する「育薬」があることを説明。「これから薬剤師は医師や看護師らと連携してチームで患者

を支えることが重要になる」と述べた。

参加者は調剤室や製剤室などを回り、実際に薬を処方する様子などを見学。大分高校3年の東川寛治さん(18)は「警察の科学捜査に興味があり、薬学部を目指している。いろんな部署を見学できて視野が広がった」と感想を語った。県内に薬学部はなく、薬

剤師を目指すには県外の大分大学を卒業する必要がある。伊東教授は「県内にも活躍できる現場はたくさんある。将来は戻ってきて、大分の医療を支える人材になってほしい」と話していた。